

地域づくり通信

第14号
平成25年1月

東日本大震災から2年が経とうとしています。地域では、毎年行っている防災訓練を「発災時により役立つ実践的なものにしたい」との機運が高まってきています。今年度、瀬谷区で実施された特長ある防災訓練の様子をご紹介します。

横浜市初！風水害DIG訓練 ～大門小地域防災拠点～



防災の輪を広げよう！ ～三ツ境小地域防災拠点～



芽生えはじめる共助のココロ。～避難所体験訓練～



南瀬谷中ボランティア体験訓練



障害児避難所体験訓練

いろんなところで、
防災訓練を工夫しているよ！
今回はその一部を紹介するね。
詳しくは中面へGO!!



特集 実践的な防災訓練はコシだ！！

横浜市初！風水害DIG訓練 ～大門小学校地域防災拠点～

瀬谷区は、河川が多く緑に恵まれ、自然環境の素晴らしい地域です。しかし、台風や集中豪雨等の自然災害の影響を大きく受けることになります。

境川に接する本郷地区では、「実践的な訓練を！」という住民の声をもとに、地域で何度も検討会を開催し、境川のはん濫を想定した **横浜市で初の風水害DIG訓練** を7月に実施しました。

当日のDIG訓練は、8つの自治会がグループにわかれて、大きく広げた地図に、浸水等の危険箇所はどこか、助けが必要な人たちがどこに多いかなどを話し合いながら、マジックで色を塗ったり、シールを貼ったりして地図に情報を記載しました。気が付けば立派な防災マップが出来上がっていました。

訓練で、浸水区域内の自治会は避難方法や避難場所を検討し、浸水区域外の自治会は、避難者の受け入れを提案するなど、「共助」の取組がグッと広がったようです。



地図にいろいろ書き込んで議論が白熱！！



DIG訓練って？

D I Gとは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の略と動詞dig「掘り起こす」を掛け合わせた造語だよ。

大きな白地図をみんなで囲んで災害をイメージしながら、危険箇所はどこか、地域での助けを必要としている人などいろいろな情報を地図に書き込んで、課題や解決方法を見つける図上訓練なんだ。

防災の輪を広げよう！～三ツ境小学校地域防災拠点～

三ツ境小学校地域防災拠点では、10月に拠点運営委員会でDIG訓練を実施しました。実際の災害をイメージした図上訓練から見えてきたことは、「円滑な避難所の運営を行っていくためには、自分たちだけでは困難。多くの人に指導や協力を得たほうが良い」という課題でした。

大切な水を確保するためには水道局、避難所の治安を保つためには警察、避難所運営で人手を確保するためには災害ボランティアネットワーク、在宅要援護者の避難者対策として地域ケアプラザ等、**防災の輪を広げた訓練**となりました。



いつもは、学校に避難するだけの訓練でしたが、危険な場所や支援する必要がある人などを共有し、共通の認識を持つことができたので、とても有意義でした。

実践的な防災訓練はコレだ！

グループ毎に特徴や課題、解決方法を発表！

本郷地区では、DIG訓練で作成したマップはその後にも加筆され、地域の防災マップとして役立っているよ！



車に気を付けて！特別避難場所に要援護者を車椅子で搬送します！



災害時は縁の下の力持ちです！
災害ボランティアネットワークのみなさん

瀬谷区災害ボランティアネットワークは、発災時にボランティアセンターを立ち上げ、避難所運営の手助けとなるボランティアの受入や避難所への派遣などの役割を担います。



水道局による受水槽からの給水訓練

横浜市初！ 学校受水槽の活用！

地上にある学校の受水槽を活用した応急給水訓練が横浜市で初めて実施されました。受水槽に水が常時確保され、停電中でも住民が操作して給水することが可能となります。

今までの訓練ではリアカーで隣の中学校まで水を汲みに行っていましたが、受水槽の活用で水が確保できてよかったです。



諸橋拠点運営委員長

芽生えはじめる「共助」のココロ。

災害時に備え、最低3日分の食料を用意するなど自分の身を守ること（自助）がまず必要です。しかし、発災後は多くの人不安の中で生活を送るため、近隣の人同士が、共に安全・安心のために助け合う「共助」のココロで乗り越えなければなりません。その時に備え、避難所体験訓練を実施しました。

南瀬谷中学校生徒によるボランティア体験訓練

瀬谷中学校では、11月に防災を担当する保健美化委員会を中心に、「共助」について考えることを目的として、中学校の中に作った避難所で避難者の話を聴くなどのボランティア活動の体験訓練を実施しました。

避難者役として協力して頂いたPTAの方々も、迫真の演技で実践さながらの訓練となりました。中学生の優しさに触れ、涙を流す避難者役の方もいました。

訓練に参加した中学生からは、「自分たちも力になれることが分かった」「本当の被災地に行って、被災者を助けたいと思った」という感想がありました。

中学生という思春期の彼らは、子どものあどけなさと、大人の理解力とを併せ持っており、大人には思いつかないような発想や優しさを素直に表現することができます。中学生に期待される「共助」の役割の大きさを実感する訓練となりました。



避難者役の話を一生懸命聴く南瀬谷中の生徒

障害児親の会「ほっぺ」 避難所体験訓練

障害のある子どもが、「震災のときに避難所で生活を送ることが出来るのか不安」という声を受け、障害児親の会「ほっぺ」と知的障害について普及啓発を行なっている「アントママ」が協力して、8月に中瀬谷消防出張所の訓練室を借りて避難所体験訓練を実施しました。

親子で段ボールを使い自分の避難スペースに表札を付けるなど、手作りの避難所を作りました。

「子どもたちが、見知らぬ場所に居られるのか」と最初は不安だった保護者も、避難所訓練を体験して「親しみが生まれることが分かった」と安心し、「今後は、地域で行われる防災訓練にも参加し、知的障害のことを理解してもらいつつ、自分が出来る範囲で避難所運営にも協力したい」と言っています。ここでも「共助」のココロが芽生えはじめました。



段ボールで避難スペース作り

【お問い合わせ先】
瀬谷区市政推進課
地域力推進担当

TEL 367-5789

FAX 365-1170

E mail: se-chiikiriyoku@city.yokohama.jp

編集後記

今回は、地域の特長ある防災訓練の一例を紹介しました。今後の訓練の参考としていただければ幸いです。

また、紹介した防災訓練をやってみたい、工夫したいというご要望がありましたら、まずは、地区支援チームにご相談ください。